

令和6年度 事業報告

一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構



目 次

令和6年度 事業報告

1 令和6年度 一般報告

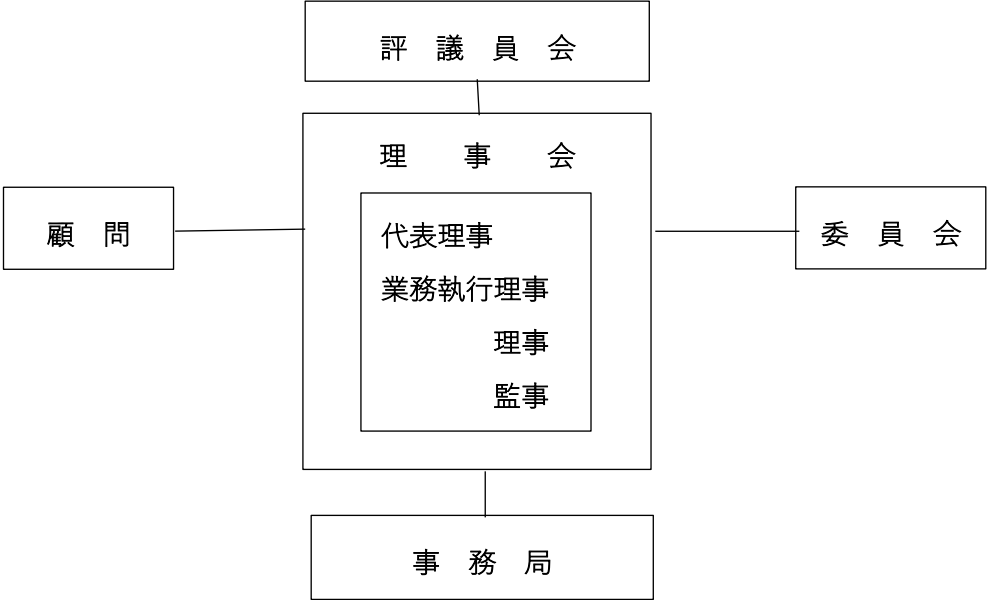
- (1) 組 織（評議員、役員、顧問、委員会、事務局）
- (2) 賛助会員
- (3) 会 議 等
- (4) そ の 他

2 令和6年度 事業報告

- (1) 情報発信・広報に関する事業
- (2) 啓発活動に関する事業
- (3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業
- (4) 伝承に関する事業
- (5) その他（受託事業）

1. 令和6年度 一 般 報 告

(1) 組 織



ア 評議員

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
評 議 員	非 常 勤	増 子 次 郎	一般社団法人東北経済連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	藤 崎 三 郎 助	東北六県商工会議所連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	千 葉 嘉 春	東北建設業協会連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	渥 美 雅 裕	一般社団法人東北地域づくり協会 理事長

イ 理事・監事

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
代 表 理 事	非 常 勤	今 村 文 彦	東北大学災害科学国際研究所所長
業務執行理事	常 勤	原 田 吉 信	一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構
理 事	非 常 勤	涌 井 史 郎	東京都市大学 特別教授
理 事	非 常 勤	片 岡 俊 一	弘前大学 教授
理 事	非 常 勤	南 正 昭	岩手大学 教授
理 事	非 常 勤	小 沢 喜 仁	福島大学 教授
理 事	非 常 勤	徳 山 日 出 男	政策研究大学院大学 客員教授
理 事	非 常 勤	紺 野 純 一	一般社団法人東北観光推進機構 理事長
理 事	非 常 勤	中 村 浩 彰	一般社団法人日本旅行業協会東北支部長
理 事	非 常 勤	古 市 秀 徳	青森県県土整備部長
理 事	非 常 勤	福 田 直	岩手県復興局長
理 事	非 常 勤	高 橋 義 広	宮城県震災復興・企画部長
理 事	非 常 勤	五 月 女 有 良	福島県企画調整部長
理 事	非 常 勤	梅 内 淳	仙台市まちづくり政策局長
監 事	非 常 勤	岡 井 覚 一 郎	日本政策投資銀行 東北支店長
監 事	非 常 勤	須 藤 宣 毅	河北新報社防災・教育室 部長

ウ 顧 問

役 職	職 名	氏 名
顧 問	青 森 県 知 事	宮 下 宗 一 郎
顧 問	岩 手 県 知 事	達 増 拓 也
顧 問	宮 城 県 知 事	村 井 嘉 浩
顧 問	秋 田 県 知 事	佐 竹 敬 久
顧 問	山 形 県 知 事	吉 村 美 栄 子
顧 問	福 島 県 知 事	内 堀 雅 雄
顧 問	仙 台 市 長	郡 和 子
顧 問	学 都 仙 台 コ ン ソ ー シ ャ ム 会 長	鈴 木 道 子

顧問	東北地方整備局長	西村拓
顧問	東北運輸局長	川崎博

エ 委員会

伝承ロードアドバイザー委員会		
役職	職名	氏名
委員長	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐藤 翔輔
委員	一般社団法人東北観光推進機構 理事長	紺野 純一
委員	一般社団法人日本旅行業協会 東北支部長	中村 浩彰
委員	青森県県土整備部 都市計画課長	垂井 祐司
委員	岩手県復興防災部 復興推進課総括課長	森田 竜平
委員	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課長	樋口 保
委員	福島県土木部 土木企画課長	中村 一彦
委員	仙台市まちづくり政策局 震災復興メリアル事業担当課長	久光 秀平
委員	東北地方整備局 企画部長	宮本 健也
委員	東北運輸局 観光部長	長澤 秀博

オ 事務局

住所	〒980-0014 仙台市青葉区本町三丁目 2-26
人員	業務執行理事 1 名、職員 4 名 計 5 名

(2) 賛助会員

区分	会 員 数			口 数		
	令和 6 年度	令和 5 年度	増減	令和 6 年度	令和 5 年度	増減
法人会員	50	42	増 8	70	63	増 7
個人会員	106	101	増 5	208	229	減 21

(3) 会議

ア 評議員会

区 分	開催日、開催場所	議事の内容
第 1 回臨時	令和 6 年 4 月 26 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】 理事と監事の選任 理事 3 名、監事 1 名の更新手続き
第 2 回臨時	令和 6 年 7 月 16 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】 監事の選任 監事 1 名の更新手続き
第 1 回定時	令和 6 年 6 月 21 日 ホテル JAL シティ仙台	【第 1 号報告】 令和 5 年度 事業報告 (1) 一般報告 (2) 事業報告 【第 2 号報告】 令和 6 年度 事業計画及び収支予算書 (1) 事業計画 (2) 収支予算書 【第 3 号報告】 令和 6 年度 異動に伴う理事・監事の選任 【第 1 号議案】 令和 5 年度 計算書類の件について (1) 財務諸表 (2) 監査報告

イ 理事会

区 分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 6 年 6 月 20 日 ハーネル仙台	【第 1 号議案】 令和 5 年度事業報告及び計算書類の件 【第 1 号報告】 異動に伴う理事・監事後任の選任について 【第 2 号報告】 顧問の委嘱について
第 2 回	令和 7 年 2 月 27 日 パレスへいあん	【第 1 号議案】 令和 7 年度事業計画 【第 2 号議案】 令和 7 年度収支予算書 【報告事項】 財政基盤について

ウ 委員会等

1. 伝承ロードアドバイザー委員会

区分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 6 年 5 月 14 日 ハーネル仙台	(1) 伝承ロード研修会 アンケート調査結果 (2) 東北地方整備局 震災伝承の取り組みについて (3) 東北運輸局 東北の観光の現状について (4) その他 (情報提供)

2. その他

機構が主催した主な会議やイベントは下記のとおり。

開催日、開催場所	取組項目	概 要 等
1) 令和 6 年 6 月 27 日 NTT 東日本青葉通ビル 1F スマートイノベーションギャラリー	第 8 回「映像アーカイブ事業」 映像試写会及び認定証交付式	概要：映像アーカイブ事業の第 7 回目の認定作品の試写会と認定証交付式を実施 ○第 012 号認定作品 (一社)建設電気技術協会 本部：東京都 「ヤミ屋のオヤジを支えた防災情報通信システム」
2) 令和 6 年 9 月 11 日 宮城県気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	地域活性化フォーラム in 気仙沼 テーマ：三陸の新しい魅力 ～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～ 参加者：60 名	概要：3.11 伝承ロード New Destination プランの 3 年目の最終年として、これまで実施したモニターツアーや検討会での議論を踏まえ、復興した三陸沿岸地域の魅力について議論する場として開催。
3) 令和 6 年 10 月 2 日 岩手県釜石市民ホール TETTO ホール B	地域活性化フォーラム in 釜石 テーマ：三陸の新しい魅力 ～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～ 参加者：75 名	概要：3.11 伝承ロード New Destination プランの 3 年目の最終年として、これまで実施したモニターツアーや検討会での議論を踏まえ、復興した三陸沿岸地域の魅力について議論する場として開催。

4) 令和 6 年 10 月 18 日 仙都会館	令和 6 年度インフラ語り部説明会 参加者：語り部 25 名 来賓：国土交通省東北地方整備局 宮本企画部長	概要：建設関係業務に従事した 役所や企業の OB を対象に東日 本大震災の復旧・復興等におけ る貴重な体験や知見を語り継ぐ インフラ語り部の確保を目的と した説明会 ○説明事項 ・ 3.11 伝承ロード推進機構の活 動について ・ 語り部（インフラ部門）の活 動について ・ 今後の活動
5) 令和 6 年 10 月 31 日 仙台国際センター 大会議室「萩」	設立 5 周年記念シンポジウム 参加者：約 300 名 (うち Web100 名)	概要：令和 6 年 8 月に設立 5 周 年を迎え、これまでの活動を振 り返り、機構の役割や意義、そ して期待について、議論する。
6) 令和 6 年 10 月 27 日 仙台市戦災復興記念館	防災・伝承セミナー in 青森 参加者：約 150 名	概要： ・ 開会挨拶：仙台市長郡和子 ・ 基調講演： 柴山明寛（東北大学災害科学 国際研究所准教授） テーマ：「震災伝承施設の見どこ ろ、展示の魅力」 ・ パネルディスカッション テーマ：「震災伝承と観光」 コーディネーター佐藤翔輔 （東北大学災害科学国際研究所 准教授） パネリスト大須武則（（一社） 石巻震災伝承の会代表理事） 小崎博子（（株）ジェイアール 東日本企画執行役員） 宮本健也（国土交通省東北地 方整備局企画部長） 庄子真岐（石巻専修大学教授）

7) 令和7年1月28日 仙都会館	3.11 伝承ロード New Destination プラン 第5回「三陸沿岸道路エリア活性化検討会」	概要： ・三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信 ① 三陸沿岸地域紹介映像作成 ② 地域活性化フォーラム ・3年間の成果
----------------------	---	---

(4) その他（寄付金の受入について）

次の法人等から寄付金によるご支援をいただきました。

令和6年度	主な法人等
寄 付 金	(一社)日本橋梁建設業協会 外 10 法人(団体を含む)
	ヤフーネット募金

2 令和6年度 事業報告

目次：項目と内容

P.1

項目	活動内容	頁
(1) 設立5周年記念事業	イ) 5周年記念シンポジウム	P.2
	ロ) Webアンケート調査	P.3
	ハ) 活動パネル作成、記念グッズ製作	P.4
(2) 情報発信・広報	イ) ホームページ	P.5
	ロ) 伝承ロードマップ・イラストマップ	P.5
	ハ) 機関誌、メールマガジン	P.6
	ニ) ラジオによる広報	P.7
(3) 啓発活動	イ) 防災・伝承セミナー	P.8
	ロ) パネル展	P.9
	ハ) イベント等のブース展示	P.10
	ニ) みやぎ災害伝承ポスターコンクール	P.11
(4) 防災・伝承ツーリズム	イ) 企業・団体向けの伝承ロード研修会	P.12
	ロ) 旅行業者との連携	P.13
	ハ) 台湾における訪日プロモーション事業	P.14
(5) 伝承に関する事業	イ) 東日本大震災10周年企画 映像アーカイブ事業	P.15
	ロ) 小中学校向け防災学習（出前授業）	P.16
	ハ) インフラ語り部	P.17
(6) その他(受託事業、他)	イ) 3.11伝承ロードNewDestinationプラン	P.18
	ロ) 女川ディスティネーション事業	P.19
	ニ) 「伝承ロード」がNIPPON防災資産の優良認定を受けました	P.20

イ

記念シンポジウム

- 目的：令和元年8月に発足して5周年を迎え、これまでの活動を振り返り、機構の役割や意義、今後の期待を議論した。
- 開催日：2024年10月31日(木)13:30～15:45
- 会場：仙台国際センター大会議室「萩」
- 参加者：会場約200名、オンライン約100名
計 約300名

プログラム

1. あいさつ 震災伝承ネットワーク協議会長
(東北地方整備局長) 西村 拓氏
2. 基調講演 3.11伝承ロード推進機構 代表理事
(東北大学災害科学国際研究所教授) 今村文彦氏
演題「レジリエントな社会に向けて～多発する
大災害に果たす災害伝承の役割～」
3. 特別講演 国土技術研究センター
業務執行理事 佐藤克英氏
演題「災害伝承のこれから～「3.11伝承ロー
ド」に対する新たな期待～」
4. 活動報告 3.11伝承ロード推進機構 業務執行理事
原田吉信氏

【挨拶をいただいた
震災伝承ネットワー
ク協議会長：東北地
方整備局長西村拓
氏】



【基調講演概要：自然災害
が多様化、激甚化する中
で、様々なリスクが顕在
化しつつあり、その中で
キーワードになるのはレ
ジリエンスで、予測不可
能な中で強じん性と柔軟
性が求められる。】

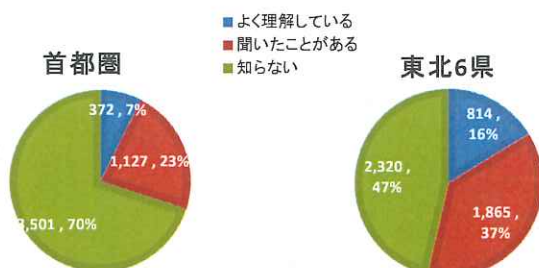
【特別講演概要：多くの災害が発生しても
教訓は伝わりにくく、犠牲が繰り返されて
いる歴史をもとに、
これから先で犠牲者
をゼロにするため
には災害の自分事化
が不可欠となる。】



ロ

Webアンケート調査（認知度調査）

- 「震災伝承施設」の認知度を、首都圏と東北6県在住の約1万人にアンケート。
- 「よく理解している人」は東北6県では首都圏の約2倍。
- 知っている人（「よく理解している」と「聞いたことがある」）は東北6県では約56%、首都圏では約30%となっている。



「3.11伝承ロード推進機構」の認知度について

	全体	よく理解し ている	聞いたこと がある	知らない
首都圏	5,000	193	502	4305
	%	3.9	10.0	86.1
東北6県	4,999	261	931	3807
	%	5.2	18.6	76.2
計	9,999	454	1,433	8,112
	%	4.5	14.3	81.1

「3.11伝承ロード推進機構」の活動を伺うと

複数回答 項目	首都圏 (193)		東北6県 (261)		順位
		%		%	
1. 震災伝承施設を案内するマップの作成配布	148	76.7	209	80.1	①
2. 機関誌の発行やメールマガジンの配信	111	57.5	109	41.8	⑦
3. パネル展の開催	106	54.9	134	51.3	③
4. イベント時のブース展示	100	51.8	129	49.4	④
5. 防災・伝承セミナーの開催	92	47.7	149	57.1	②
6. 伝承ロード研修会	81	42.0	110	42.1	⑥
7. ラジオ番組の制作	80	41.5	79	30.3	⑨
8. 映像アーカイブ事業	71	36.8	109	41.8	⑦
9. 小中学校向けの防災出前講座	59	30.6	116	44.4	⑤
10. その他	1	0.5	1	0.4	⑩

【Webアンケート実施状況】

- ・実施日 令和6年6月
- ・調査対象者数 合計 n=9,999人 (100%)
- ・首都圏 (1都3県：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)
n=5,000人
- ・東北6県 (青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)
n=4,999人
- ・男女同数

ハ

活動パネル作成、記念グッズ製作

■これまで活動を振り返るパネルを制作
主な活動をパネル化し、記念シンポジウムで紹介したほか、次年度以降のパネル展に活用を予定。

- ・5周年の歩み
- ・映像アーカイブ事業
- ・伝承ロードマップ制作・配布
- ・イラストマップの制作・配布
- ・メールマガジンの配信
- ・ラジオ番組の製作・放送
- ・防災・伝承セミナーの開催
- ・3.11伝承ロード研修会の実施
- ・台湾プロモーション事業
- ・機関誌の発行
- ・パネル展の実施



製作パネル 【5周年の歩み】と【3.11伝承ロード研修会の実施】



■5周年記念グッズの製作

5周年を記念したグッズとして、トートバッグ、マルチバンド、セラミックカッターの3種類を製作。記念シンポジウムで配布した。これまでのクリアファイル、ロゴマークのシール、ミニペンライトに代わるグッズとして、研修会やイベントに活用する予定。

イ

ホームページ

<https://www.311densho.or.jp/>

1. 活動に関するタイムリーな話題提供
2. 組織概要
3. 活動状況の紹介(3.11伝承ロードの説明と震災伝承施設の紹介、防災・伝承セミナーの開催結果、伝承ロード研修会の実施状況、映像アーカイブ事業の動画紹介、ラジオ音声アーカイブ、制作動画紹介、機関誌バックナンバー、受託事業紹介、他)
4. フェイスブックによる情報発信



【当機構ウェブサイトトップページ】

ロ

伝承ロードマップ・イラストマップ

1. 伝承ロードマップの更新と提供
2. イラストマップの更新と提供



○伝承ロードマップについては被災4県にある第2・第3分類の震災伝承施設を網羅したベースマップで、多言語化として英語版と中国語(繁体語)版もある。

○イラストマップ(上図)は、県別に震災伝承施設と主な観光施設・食・イベント等のメジャーな施設をイラストで表現し、被災地のアクセス機会の増大と滞在期間の拡大が狙い。多言語化として英語版と中国語(繁体語)版がある。

■機関誌「伝承ロード『縁』」の発行

「人と人を繋ぎ、被災地を結ぶ。」をコンセプトに、伝承は人から人へ伝える「縁」が大切。機構が目指す人の縁を中心に据えて、震災伝承活動を紹介する機関誌。年4回発行。設立5周年を記念し、職員自らが知名度の低い第1・2分類の震災伝承施設取材し、紀行文を掲載する取り組みを、令和6年9月発行の12号からスタート。

- 震災伝承施設や語り部活動等の人に着目し、その背景や動機も含めて紹介、自治体における復興のまちづくりや被災地の拠点なども紹介。当機構の活動状況も掲載。読んでいただける機関誌を目指す。広告掲載により発行コストの軽減を図る。バックナンバーはHPに掲載。令和3年12月の第1号から14号まで発刊

■メールマガジンの配信（月1回程度）

機構の活動をタイムリーに紹介。

- 活動紹介として、伝承ロード研修会、防災・伝承セミナー、パネル展、アーカイブ映像認定式、会議や委員会開催状況などを、震災伝承施設、賛助会員、寄付者などに配信。令和3年12月の第1号から毎月配信し、これまで第42号配信。



伝承ロード「縁」(第10号)

(概要)

12page、3千部、
配布先：震災伝承施設、賛助会員、寄付者、道の駅、自治体等に配布

東日本大震災の風化の防止及び防災力の向上を目的に、毎年テーマを変えながら被災4県（青森、岩手、宮城、福島）のラジオのリスナー向けに東日本大震災の真実や教訓を伝える15分番組を制作。令和3年度からスタート。震災後の復旧・復興工事における地元建設業者の体験・苦労をナビゲーターとの対話形式で振り返り、地元建設業者の社会貢献について明らかにする。

- 令和3年度：震災伝承施設関係者の被災体験
- 令和4年度：一般市民が知らない企業・団体の震災活動
- 令和5年度：建設業者の社会貢献を明らかにした震災対応活動
- 令和6年度：地元建設業者が体験・苦労した震災対応活動

(1) 放送局：被災4県の青森放送、岩手放送、東北放送、ラジオ福島

(2) 収録企業

第1回	岩手県大船渡市「(株)佐賀組」	2月2週
第2回	福島県南相馬市「石川建設工業(株)」	2月3週
第3回	宮城県仙台市「(株)橋本店」	2月4週
第4回	宮城県石巻市「(株)丸本組」	3月1週
第5回	岩手県釜石市「(株)山長建設」	3月2週

ラジオ放送の音声データは、ホームページで音声アーカイブとして令和3年度から公開



左の画像はR6年度の収録状況：左から(株)佐賀組、石川建設工業(株)、丸本組(株)

■防災・伝承セミナー in 仙台

目的：震災伝承施設のネットワーク化を図る「3.11伝承ロード」の周知と理解促進、防災力の向上が狙い。

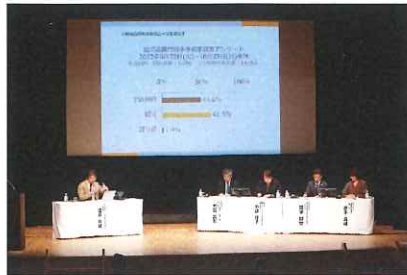
開催日：2024年11月27日(水)13:30～15:30

会場：仙台市戦災復興記念館大ホール

参加者：会場約150名



【基調講演の柴山准教授】



【パネルディスカッション状況】

プログラム

【あいさつ】 仙台市長 郡和子氏
【基調講演】 東北大学 准教授 柴山明寛氏
テーマ：震災伝承施設の見どころ、展示の魅力
【パネルディスカッション】
テーマ：災害伝承と観光
～震災伝承施設の魅力と観光への誘い、そして地域の活力について～

・コーディネーター
東北大学 准教授 佐藤翔輔氏

・パネリスト
石巻市震災遺構指定管理G 大須武則氏
(株)ジェイアール東日本企画 小崎博子氏
東北地方整備局企画部長 宮本健也氏
石巻専修大学 教授 庄子真岐氏

○R2年福島県、R3年宮城県、R4年岩手県、R5青森県と持ち回りで開催
○セミナーの開催状況は、開催県の地元紙に載録記事として掲載し、震災伝承に対する理解促進を図っている。今回は河北新報に掲載した。

■不特定多数の方に、震災の記憶や記録を後世に伝えるために、東日本大震災の記録や教訓などを紹介するパネル展を毎年、東北各地で開催。

■東北地方整備局や(一社)東北地域づくり協会などの協力を得て、道路啓開、津波排水除去、港の航路啓開など、復旧・復興に至る建設業界の活動のパネルや、被災前・被災直後・復興10年の航空写真等のパネルを展示するとともに、当機構の活動や震災伝承施設の紹介するパネルなども展示。また、施設の協力を得て、アーカイブ映像による発災当時の建設業界の活動も紹介する。



【福島県立図書館展示状況】

【令和6年度 展示会場一覧】

	開催日	開催施設名	所在地	見学者数
1	4月26日～5月30日	せんだい3.11メモリアル交流館	仙台市	5,258人
2	6月7日～21日	山元町防災拠点・山下地域交流センター	宮城県山元町	185人(推計)
3	7月30日～8月7日	ユートリー(VISIT八戸)	青森県八戸市	270人(推計)
4	8月8日～16日	種差海岸インフォメーションセンター	青森県八戸市	270人(推計)
5	9月19日～10月2日	福島県立図書館	福島市	300人(推計)
6	3月7日～13日	山形県郷土館「文翔館」	山形市	600人(推計)

【令和5年度の実績】

No.	主な会場	開催日
1	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	6/10～7/7
2	最上広域センター「ゆめりあ」	9/5～8
3	真室川町総合運動公園	9/9～10
4	東日本大震災・原子力災害伝承館	10/20～30
5	山田船渡サンリア・おおふなぼーと	11/1～14
6	東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」	2/1～29
7	山形県文翔館	3/8～14

■第12回「震災対策技術展」東北
～自然災害対策技術展～

- ・日程：2024年5月21～22日
- ・会場：AER5F
- ・災害に強いまちづくりを推進する立場から、震災対策技術や製品、防災減災の取り組みなどを発信する場として技術展を開催

【震災対策技術展：
ブース展示の様子】

■World BOSAI EXPO

- ・日程：2025年3月7～9日
- ・キャッチフレーズ「どうするキコヘン」
- ・会場：仙台国際センター会議棟
- ・3日間で34カ国5,434名が参加
- ・ブース展示46団体

【World BOSAI EXPO：
ブース展示の説明の様子】

■仙台防災未来フォーラム2025

- ・日程：2025年3月8日
- ・テーマ「一人ひとりが主役とともに創ろう防災の輪」
- ・会場：仙台国際センター展示棟
- ・主催：仙台市
- ・後援：宮城県、他
- ・ブース展示85団体
- ・来場者約5,300名

【未来フォーラム：
ブース展示の案内状況】

令和4年度から宮城県が主催し、3回目を迎える。当機構は震災伝承推進の観点から共催として参画。最優秀賞に次ぐ、特別賞を授与している（賞状と記念品）。

◇「特別賞」の紹介◇

【賞状授与
の様子】

【小学校低学年の部】

川崎町立川崎小学校 1年
菅原 糸 さん



【小学校高学年の部】

多賀城市立多賀城小学校 4年
長谷川 新汰 さん



【中学校の部】

宮城県古川黎明中学校 3年
狩野 歩南 さん



【高校の部】

宮城県宮城野高等学校 1年
吉川 真優 さん



イ

企業・団体向け3.11伝承ロード研修会

【事業概要】

発足時から企業・団体向けに震災伝承施設等を案内する3.11伝承ロード研修会を実施。依頼者の要請に基づき、震災伝承施設だけでなく、被災地の復旧・復興の状況、復興インフラなども案内。

企業・団体職員の社員研修や新人研修に活用されている。

【研修のポイント】

1. 沿道の被災・復興状況の説明やビデオにより移動時間を有効に活用。
2. 施設見学には専門のガイドや語り部を配置。
3. 他では見られない行政等の施設見学の手配も可能。
4. 専門家による座学を取り入れ、学びを深めることが可能。

◆令和6年度の実施状況

22回の研修会を実施。昨年度より回数は減少するも満足度はアップ。

【前年度との比較】

	令和5年度	令和6年度
実施回数	32回	22回
参加人数	730名(22.8人/回)	433名(19.7人/回)
満足度	81.8%	88.4%
研修行程	日帰り14回、1泊以上18回	日帰り12回、1泊以上10回

注)満足度はアンケート結果による



(石巻市震災遺構大川小学校)



研修会の様子
(東日本大震災津波伝承館)

ロ

旅行業者との連携（伝承ツーリズム連絡会）

- 旅行業者が持つ様々なツアーノウハウの入手と、震災伝承施設の観光コンテンツ化に向けて、仙台市内の大手旅行会社支店や地元旅行会社等で構成する「伝承ツーリズム連絡会」を開催。
- 3.11伝承ロード研修会や受託事業等を紹介し、意見交換を実施。
- 設立5周年記念事業や震災伝承施設等のWebアンケート調査も説明。
- 旅行会社のツアー商品に対する震災伝承施設の導入や、伝承ロード研修会における旅行業者の協力体制構築に貢献。
- 令和6年度は令和7年2月3日に開催



【連絡会開催状況】

伝承ツーリズム連絡会【参加メンバー】

ANAセールス(株)、(株)近畿日本ツーリスト、(株)JTB、ツアー・ウェーブ仙台、日本航空(株)東北支店、名鉄観光サービス(株)、トラベルe旅.Com、(株)日本旅行東北、東武トップツアーズ(株)、東北ちゅらトラベル(株)、東日本急行(株)、(株)みちのりトラベル東北、(株)タケヤ交通、宮城交通(株)、宮城県観光連盟、東北地方整備局企画部、他

1. 学校向け震災伝承施設説明会

台湾からの教育旅行に震災伝承施設を活用していただくために、台北市と台中市にの高校（高級中学校）の教育旅行担当の先生に対して、東日本大震災の震災伝承施設の説明会を実施した。

	月日	会場	参加学校数と参加者
台北市	令和6年6月11日	台北市立大安高級工職業学校行政大樓第一会議室	37校 44名
台中市	令和6年6月13日	國際交流聯盟第四區辦公室惠文高中圖書館三樓國際移動力中心	17校 19名

2. 教育関係者招請旅行（9月24日(火)～27日(金)）

昨年に訪問した台中市の6高校先生6名にモニターとなつていただき、震災伝承施設、高校訪問、観光施設等を案内し、震災伝承施設の防災教育における価値や魅力を紹介した。

【3泊4日の行程】仙台空港＝仙台育英学園訪問＝＜宿泊＞＝松島クルーズと松島見学＝南三陸311メモリアル＝教育セミナー＝＜宿泊＞＝南三陸語り部バス＝ワタミオーガニックランド＝東日本大震災津波伝承館＝教育旅行セミナー＝＜宿泊＞＝平泉観光＝震災伝承ネットワーク協議会表敬訪問＝仙台空港

東日本大震災
津波伝承館
訪問状況



3. 学校訪問と教育旅行相談会

12月に台湾に出向き、台南市の高校4校への学校訪問と、昨年初めて台北市で実施された教育旅行相談会に参加し、震災伝承施設の防災学習における魅力など説明しました。

1) 学校訪問4校（令和6年12月5日）

- ・台南高級商業職業学校
- ・台南家齊高級中学
- ・台南第一高級中学
- ・台南市立台湾高級中学

2) 教育旅行相談会（令和6年12月6日）

- ・会場 台北将晶宴民権館
- ・台湾参加者 小・中・高等学校40校57名

東日本大震災後の建設事業者の復旧活動を映像としてアーカイブ化し、記憶と教訓を継承する事業。これまで11本作成

【活用（PR）の場（案）】

- ◆ 各企業での諸行事
- ◆ ホームページへの掲載
- ◆ 社員採用、社員研修
- ◆ 震災伝承研修ツアー
- ◆ 伝承施設等での展示上映等

R6年度は「ヤミ屋のオヤジを支えた防災情報システム」（一社）建設電気技術協会を制作の1本のみ



【認証交付式の状況】

	認定作品	会社名
1	第二の水素爆発を防げ	大成ロテック(株) (本社：東京都)
2	地元を守れ！	(株)武山興業 (本社：石巻市)
3	道を切り啓け！	刈屋建設(株) (本社：宮古市)
4	ふるさとに笑顔を取り戻す	若生工業(株) (本社：石巻市)
5	ワンチームで地域を守れ！	熱海建設(株) (本社：仙台市)
6	仙台空港を啓開せよ！	前田道路(株) (本社：東京都)
7	気仙大橋を通せ！	東亜建設工業(株) (本社：東京都)
8	航路を啓け！緊急物資と燃料を届けろ！	(一社)埋立浚渫協会
9	津波から市民の命と財産を守るために ～釜石港湾口防波堤 災害復旧工事編～	(一社)埋立浚渫協会
10	日常を取り戻せ！	野村建設(株) (本社：宮城県山元町)
11	緊急復旧工事を阻むもの ～放射線との闘い～	石川建設工業(株) (本社：南相馬市)
12	ヤミ屋のオヤジを支えた防災情報システム ～東日本大震災を全国に伝えた防災情報システム～	(一社)建設電気技術協会

口

小中学校向け防災学習（出前授業）

■小学校2校、中学校3校からの依頼を受け、小中学生向けの防災学習としての出前授業を実施

- ・ 5月24日(金) 福島県棚倉町棚倉中学校 1～3年生 約350名
- ・ 7月2日(火) 新潟県南魚沼市中之島小学校 6年生 23名
- ・ 9月19日(木) 新潟県 上越市南本町小学校 5年生 43名
- ・ 10月5日(土) 宮城県登米市佐沼中学校 1年生 137名
- ・ 11月13日(水) 新潟県新発田市豊浦中学校 全校生徒 154名

出前授業の概要

当機構の職員から東日本大震災の概要と「自助、共助、公助」の講話、その後に語り部さんによる震災体験談のお話し、時間がある場合は、ワークショップによる災害時における地域の課題を議論。また、グループワークとして避難所で活用できるグッズの製作などを実施。

東日本大震災の実情を理解し、語り部の体験から震災の実体験を学び、からお互いに議論し、手足を使って工作する印象に残る防災学習を実践。



【棚倉中学校の授業状況】



【中之島小学校の授業状況】



【佐沼中学校の授業状況】



【豊浦中学校の授業状況】



【南本町小学校の授業状況】

ハ

インフラ語り部

- 東日本大震災における震災対応とその後の復旧・復興の体験、災害時における復旧等の経験等を語り継ぐため、企業や行政等のOBを対象とした語り部の取り組みを令和2年度から実施。令和5年まで70名が登録。
- インフラ語り部として伝承ロード研修会等において活用予定
- これまで研修会において9回実施
令和2年度2回、令和3年度4回、令和4年度2回、令和5年度1回
- 令和3年度 説明会、スキルアップのための研修会、現地セミナーを実施
- 令和4年度 説明会、現地セミナー（東松島市）
- 令和5年度 説明会、現地セミナー（東松島市野蒜地区）
- 令和6年度 説明会、現地セミナー（女川町）



【R6 11/29現地セミナー状況】

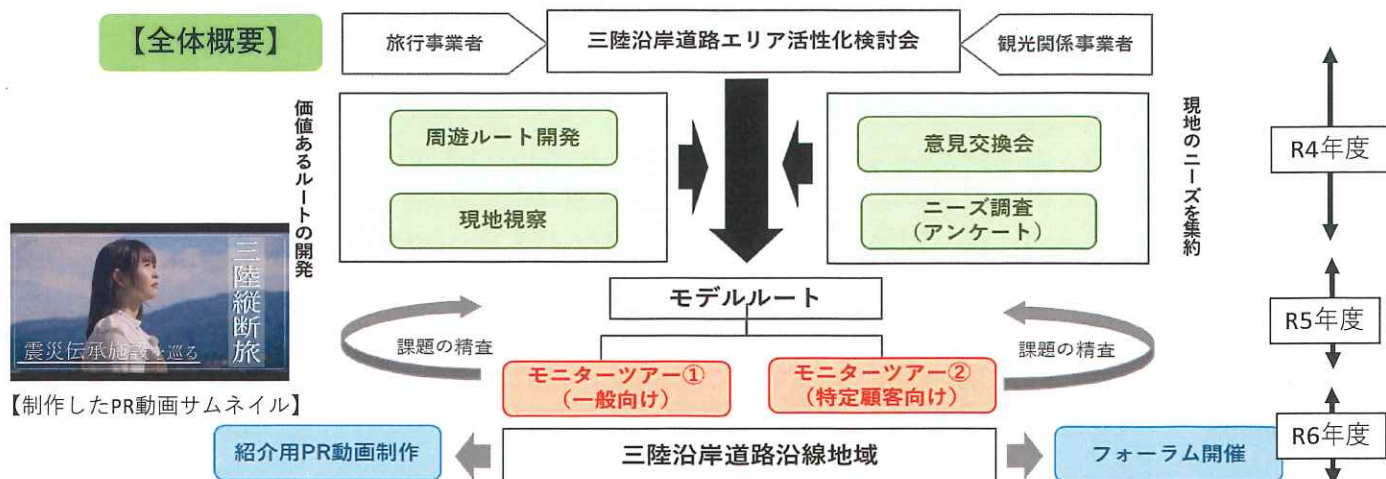


【R6 10/18説明会実施催状況】

イ 3.11伝承ロードNew Destinationプラン (国土計画協会支援事業)

【目的】三陸沿岸道路を活用し、各地の観光コンテンツと震災伝承施設を融合させた三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来志向の地域活性化方策を提案すること。
(令和4年から3カ年調査)

【6年度取組】最終年として、これまでの議論の集約と周知の観点から情報発信を行った。被災地では、復旧や復興が進展し、三陸沿岸道路の整備により、劇的な変化を遂げている。経済社会が大きく変化する中で、地域がどのように変化したのか。三陸の域内ではファールームを開催し、域外に対してはPR動画制作による地域の魅力を発信した。



ロ 事業名：女川ディステーション事業

【事業概要】震災復興の魅力を探る新たな防災ツーリズムを提案するため、東日本大震災で大規模な被害を受けた女川町をステージとして、女川港を正面に太平洋のオーシャンビューを望むことができる復興まちづくりや震災遺構旧女川交番の見学。また、女川原子力発電所PRセンターにおいて、東日本大震災発災時の津波対策や避難者対応等の説明。さらに、令和6年12月19日開通した出島大橋を見学し、新たな女川町の魅力を体験できる特別なツアーを造成した。

【実施項目】

1. 出島住民アンケート調査とりまとめ整理
2. 出島・出島架橋紹介動画制作
3. 周遊プログラム検討・作成
4. モニターツアーの実施
5. 商品造成タリフの作成
6. ツアー紹介CM動画作成
7. ツアー広告とYouTubeプロモートの実施

【アピールポイント】

- ・12月19日に開通した出島大橋を渡り壮麗な景色を堪能し、復興の姿を実感します。
- ・東日本大震災の津波を防ぎ、地域住民の避難所となった女川原子力発電所における震災対応と未来に繋がる教訓を学びます。

【出島大橋と女川の復興・体感バスツアー】

料 金：大人16,000円/人 (小学生8,000円/人)
催行日：2025年2月16日(日)
企 画：3.11伝承ロード推進機構
主 催：近畿日本ツーリスト

【造成コース】

仙台駅 9:00 = 女川町役場 (座学：復興のまちづくり)
= 震災遺構旧女川交番 = 出島大橋・出島 = シーパルピア女川 (昼食・お買い物) = 女川原子力発電所PRセンター = 仙台駅 17:00



【モニターツアー
「復興の町づくり座学」】

ハ 「3.11伝承ロード」がNIPPON防災資産の優良認定を受けました



＜制度概要＞内閣府、国土交通省が、地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを、「NIPPON防災資産」として認定する制度（R6年5月創設）

「優良認定」として
“3.11伝承ロード”が選定

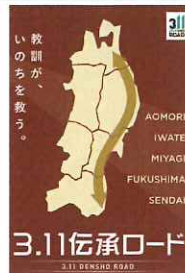
＜3.11伝承ロードの選定理由＞

「教訓が、いのちを救う。」という明確なコンセプトのもとで、東日本大震災関連の震災伝承施設をネットワーク化することで防災に関する様々な取組や活動が数多く実施されている。

震災伝承施設のネットワーク化による「3.11伝承ロード」の構築

●震災伝承施設の情報発信 様々なツールを活用し震災伝承施設のネットワーク化と情報発信を実施

- ・伝承ロードマップの配布
- ・イラストマップの発行
- ・機関誌による紹介
- ・パネル展の開催



●伝承ロード研修会による 震災学習と被災地交流

発足以降2023年まで72回の研修会の実施、1,382名参加者と震災伝承施設等延152施設を案内し、震災学習と被災地交流を推進

